

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

532

授業力向上サポート事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	2	社会を生き抜く子供たちの学力の育成
施策	1	確かな学力を育む教育の推進
取組方針	1	教育課程の充実と学力の向上

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		教育総務費	
	目		教育研究所費	
	大事業		教育研究所事業	
	中事業		授業力向上サポート事業	

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	
事業実施の根拠法令	地方教育行政の組織及び運営に関する法律		関連課	

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	授業改善研修等を重ねることで、教育の授業力向上と児童生徒の学力向上を目指す。		小中学校における児童生徒の、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を行う。また、客員指導主事を活用し、学校の校内研修の活性化と充実を図る。			
事業内容		令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
		授業研究大会開催、中学校の学び合いの授業づくり事業、客員指導主事事業の実施。	和歌山市授業研究大会の開催、中学校の学び合い、客員指導主事事業の実施。	和歌山市授業研究大会の開催、中学校における学び合いの授業づくり、客員指導主事事業の実施。	和歌山市授業研究大会の開催、中学校における学び合いの授業づくり、客員指導主事事業の実施。	和歌山市授業研究大会の開催、中学校における学び合いの授業づくり、客員指導主事事業の実施。

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	889	644	804	848	866	918	927	0	927	0
伸び率(%)	△20.8%	△44.1%	△9.6%	31.7%	7.7%	8.3%	7%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	4,778	3,345	4,577	8,300	8,003	7,106	8,003	0	0
	正規職員以外	1,617	703	1,412	2,879	2,870	1,793	2,870	0	0
	小計	6,395	4,048	5,989	11,179	10,873	8,899	10,873	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	889	644	804	848	866	918	927	0	927	0
所要人数(人)	正規職員	0.60	0.42	0.59	1.07	1.07	0.95	1.07	0.00	0.00
	正規職員以外	0.43	0.14	0.38	0.76	0.76	0.55	0.76	0.00	0.00
主な予算内訳	報償金790千円、市内出張旅費14千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
客員指導主事の活動数		人	100	100	100	100	
			100	165	170		
			100%	165%	%	%	%
学び合いの授業研究会回数		回	54	54	54	54	
			26	79	102		
			48.1%	146%	188%	%	%
学び合いの授業研究会参加者数		人	200	200	200	200	
			55	662	2057		
			27.5%	331%	1028%	%	%
成果指標			目標値				
			実績値				
			達成度(%)				

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				できない
				達成していない (70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	令和4年度の和歌山市授業研究大会は、小学校5校、中学校2校が授業校となった。感染症の拡大で1校公開を取りやめた が、当日は、179名の教員が授業を参観し、活発に意見交流が行われた。また中学校では、リモート配信も行ったので、 自校から視聴した教員も多かった。客員指導主事事業は、小・中・義務教育学校・高等学校からの依頼を受けて、のべ17 0回の訪問指導を行った。
見直し・改善内容	学び合いの授業づくりについては、各校の今までの取り組みをもとに、各校及び各教員の授業改善に向かう意欲の向上や授 業研究の深まりを一層すすめるために、各校オリジナルの「学び合いの授業づくり」スタイルで授業改善に取り組む。また 、取り組みについての理解を深めるため作成した、授業づくりハンドブックと説明動画の内容について。さらに改良を重ね て更新し、各校での活用を促していく。